

木材加工をベースに機械加工の可能性を拡大し

新しい日本の
モノづくりを提案する

Machining JP
CORE

新産業メディア

マシニングコア

x3年1月号



組織統合後初の 日本木工機械工業会 新年賀詞交歓会

木機展・日本の成功を祈念 政官から産業再生に応援の声

(一社)日本木工機械工業会(宮川嘉朗理事長)は1月16日午後4時30分から東京都港区芝公園の機械振興会館(機械振興倶楽部)で新年賀詞交歓会を開催し、産官学の関係者が一堂に会して懇談の一時を過ごした。組織統合後初となる新年会では木機展・日本として初開催となる木工機械展の成功を祈念するとともに、政官から産業再生に向けた応援の祝辞があった。

東京事務所・雨宮礼一所長の司会で進行した新年賀詞交歓会では宮川理事長が挨拶し、2012年5月に(社)全国木工機械工業会と名古屋木工機械工業会が発展的統合を果たし日本木工機械工業会として設立した点、また、35社で発足した組織が積極的な拡大活動で56社(2013年1月15日時点)まで会員が増加した点を

報告するとともに、今年11月に開催する木機展・日本(日本木工機械展／ウッドエコテック)について紹介した。木機展・日本は2011年まで全国木工機械工業会と名古屋木工機械工業会が共催してきた名古屋国際木工機械展／ウッドエコテックの内容を拡充して開催するもので、両組織が統合後、初めての開催となる。宮川理事長は日本木工機械工業会会員に対し積極的な出展を通じて最新技術の発表の場として活用していただきたいと希望するとともに、産官学の関係者に協力を求めた。

宮川理事長の挨拶に続いて石田祝稔衆議院議員、経済産業省(製造産業局産業機械課)・須藤治課長、農林水産省(林野庁林政部木材産業課)・洲上和之課長、原田義昭衆議院議員が相次いで祝辞を述べた。石田代議士



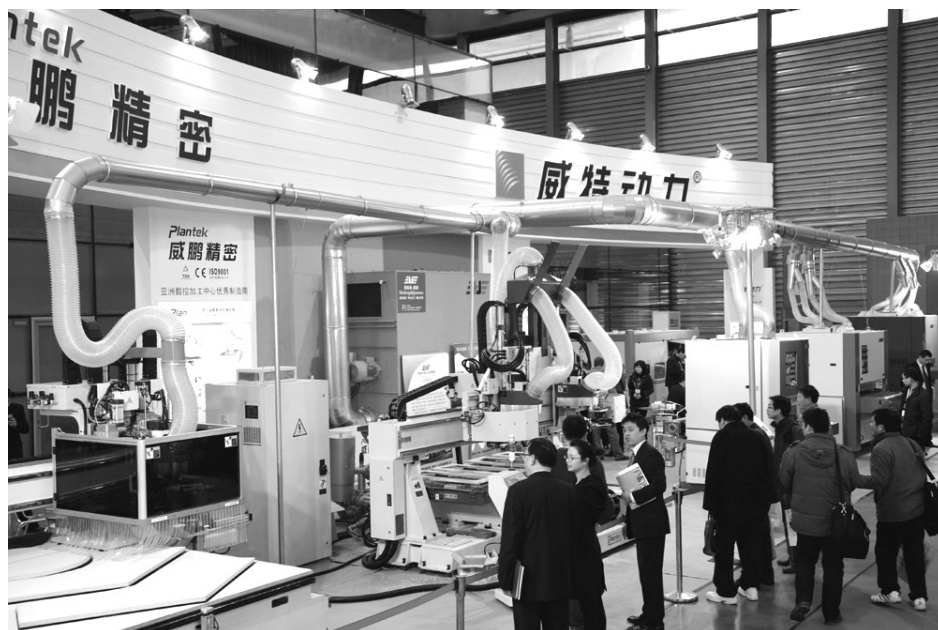
は84%で林野率日本一を誇る高知県選出の衆議院議員で、所属する公明党では農林水産部会長を務める。森林・林業再生プランを機に追い風を受ける日本の林業・木材産業の今後について「川上から川下までが力を合わせ、木材そのままではなく必要な加工を加え需要を拡大していく必要がある」とした。また、3年3ヵ月振りに衆議院議員に返り咲き、第18代国土交通大臣を務めている太田昭宏代議士(公明党全国代表者会議議長)の近況も伝えた。

ウッドマック・チャイナ

最大規模の 前回並みを計画

X3年
世界の
専門見本市

3月5日～8日、中国
(シャanghai市・SNIEC)



Courtesy of WoodMac China

成長を続けた中国で 20年を超える木工機械見本市

日本の森林資源の新たな市場としても注目を集める東アジアでは3月5日(火)から8日(金)までの4日間、中国・シャanghai市(上海)でウッドマック・チャイナが開催する。

ウッドマック・チャイナ(WoodMac China)はシャanghai市浦東(浦東)のSNIEC(Shanghai New International Expo Centre)を会場に2年に一度開催している木工機械と木工用関連資材の専門見本市で、今回は第12回目を数える。2011年の前回はドイツ、イタリア、カナダ、中国の共同出展を含む18ヵ国から360社を超える企業が3万5千㎡のブース

面積を出展し、1万6,730人が来場して、ウッドマック・チャイナ24年の歴史の中で最大規模での開催となった。来場者の41.1%はシャanghai、45.2%はシャanghai以外の中国、11.7%がベラルーシ、モンゴル、ペルー、ロシアからのミッションを含む中国国外73ヵ国からの来場者だった。

今回も木工機械が主体のウッドマック・チャイナに加え、家具製造関連資材分野のファニテック・チャイナ(Furnitek China、第12回目)、建築用木材・木製品分野のウッドビルド・チャイナ(WoodBuild China)を併催し、建築・設計、家具・

内装資材製造、木材加工・販売を手がける専門家を主な対象として中国の木材加工市場に最適な最新技術を紹介する予定。

今回はSNIECの新展示施設のN3～5ホールを使用し、開場時間は午前9時30分から午後5時まで(最終日だけ午後3時まで)。主催者はCNFMA(China National Forest Machinery Association、中国林業機械協会)、CIE社(China International Exhibitions Ltd.)、ドイツ見本市社(Deutsche Messe AG)。

→ www.woodmacchina.net

【詳細は MachinigCore 2013年1月号】